

## ナシ「早水」の早期摘果による肥大促進と捻軸処理による軸折れ防止技術

### [要約]

「早水」は満開 14 日後に 3 果そう当たり 1 果に早期摘果すると平均果重が 500g 以上となり肥大が優れる。早期摘果をすると軸折れによる落果がやや増加するが、上向き果を残す場合は満開後 60 日頃に果軸の捻軸処理をすると軸折れ落果を防止できる。

農業総合センター園芸研究所

平成25年度

成果  
区分

技術情報

### 1. 背景・ねらい

本県育成新品種「早水」は、早生ナシとしては大玉生産が可能で糖度が高い特性がある。「早水」の栽培上の問題のひとつとして、7月上旬頃から軸折れによる落果が発生しやすい特性があり、着果量確保が課題である。

そこで、着果管理の違いが果重や果実品質に及ぼす影響と捻軸処理による軸折れ落果防止効果を明らかにする。

### 2. 成果の内容・特徴

1) 満開 14 日後に 3 果そう当たり 1 果に本摘果し、満開後 30 日に補正摘果する早期摘果では、平均果重は 500g 以上となり糖度がやや高くなる(表 1)。

2) 早期摘果による果形の良否への影響はないが、軸折れ落果率はやや増加する(表 1)。

3) 「早水」では果軸が上向きの果実は軸折れしやすいが、満開後 60 日頃に果軸の捻軸処理をすると軸折れ落果を防止できる(図 1、表 2)。捻軸処理による果重や糖度、果形などの果実品質への影響は見られない(表 2)。

### 3. 成果の活用面・留意点

1) 「早水」は短果枝に子花の着生が多いことから、早期摘果の効率化のためには摘らいで子花を除去することが望ましい。

2) 果実肥大のためには、着果量は「幸水」の着果目安の 8~10 果/m<sup>2</sup>よりやや少なくする。3 果そう当たり 1 果の着果量は 7 果/m<sup>2</sup>程度である。

3) 「早水」の低番花(1、2 番花)は軸折れ落果率が高く、食味も不良であるため着果させない(平成 24 年度主要成果)。

4) 「早水」の果形の乱れは摘果時には認められず、収穫期に近づくほど顕著となるため、選果に注意する。

#### 4. 具体的データ

表1 「早水」の摘果時期が果実品質および軸折れ落果に及ぼす影響

年	処理区	一果重	良果形果率	糖度	軸折れ落果率
		g	%	Brix%	%
H24年	早期摘果区	518	78	14.0	13.6
	後期摘果区	452	78	13.6	5.2
H25年	早期摘果区	513	80	13.6	11.6
	後期摘果区	420	84	13.4	2.3

##### 1) H24年の試験区

供試樹 8年生 3樹

①早期摘果区: 満開後14日に3果そう1果に本摘果、満開後30日に補正摘果

②後期摘果区(慣行区): 満開後30日に予備摘果し、満開後50日に3果そう1果に摘果

##### 2) H25年の試験区

供試樹 高接ぎ9年生 3樹

①早期摘果区: 満開後14日に3果そう1果に本摘果、満開後30日に補正摘果(7果/m<sup>2</sup>)

②後期摘果区(慣行区): 満開後40日に予備摘果し、満開後50日に3果そう1果に摘果(7果/m<sup>2</sup>)

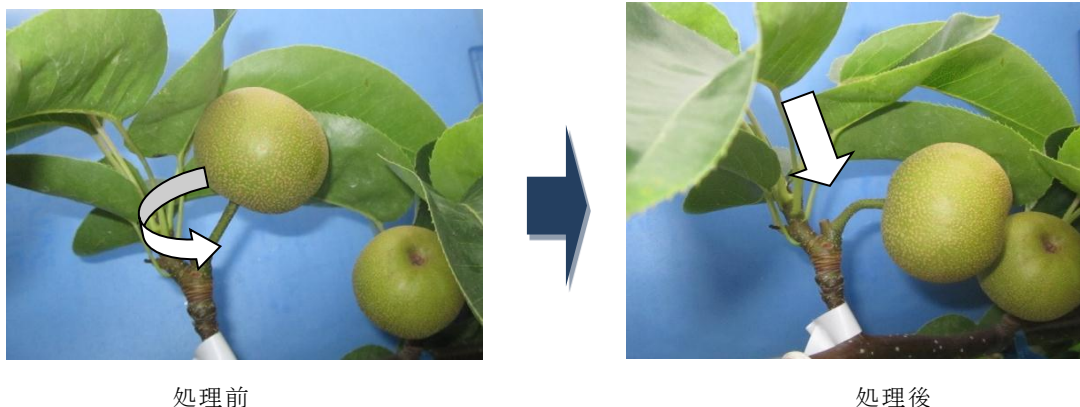


図1 捻軸処理の様子

注) 捻軸処理は果軸が上向き(水平面に対して45~90度の角度)のものに、満開後60日頃に果実を持ち180~270度程度軸を捻った(左写真)。それにより果重で軸が倒れる(右写真)。

表2 「早水」の捻軸処理が軸折れ落果および果実品質に及ぼす影響(平成25年)

試験区	軸折れ落果率	一果重	良果形果率	糖度	良食味果率
	%	g	%	Brix%	%
処理区	0	428	86	12.8	78
無処理区	50.9	424	81	13.0	84

1) 試験区の軸の角度は上向き(45~90度)を処理対象とした。

2) 処理10日後に捻軸を確認したところ、捻れの戻りはみられなかった。

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ナシ新品種「早水」及び「恵水」の高品質生産技術の開発・平成 23~25 年度・園研果樹研究室